

日比谷公園グランドデザイン ～ 5つの提言 ～ について

1.目的

- ・公園のポテンシャルを最大限に発揮させ魅力向上を図るため、将来像を明らかにし、都民や利用者等と共有する
- ・開園130周年を迎える2033年を目標とし、将来像とそれを実現するための主な取組を併せて提示する

2. 公表までの経緯

H29.10.16	第1回検討会
H30. 1.29	第2回検討会
H30. 3. 9	第3回検討会
H30.10.15 ～11.14	中間のまとめパブリックコメント
H30.12.18	第4回検討会
H30.12.26	日比谷公園グランドデザイン公表

■ 検討会委員名簿

	氏 名	役 職	専 門
委員長	進士 五十八	福井県立大学学長 東京農業大学名誉教授	造園
副委員長	岸井 隆幸	日本大学理工学部特任教授	都市計画
	アレックス・カー	東洋文化研究者	東洋文化
	宇田 左近	ビジネス・ブレイクスルー 大学副学長	経営
	亀山 章	東京農工大学名誉教授	文化財・ 自然生態系
	白洲 信哉	文筆家、プロデューサー	日本文化
	保井 美樹	法政大学現代福祉学部 人間社会研究科教授	エリア マネジメント
	久保田 浩二	東京都都市整備局 都市づくり政策部長	
	花井 徹夫	東京都建設局 総務部企画担当部長	
	日浦 憲造	東京都建設局 公園緑地部長	
	細川 卓巳	東京都建設局 公園計画担当部長	

3. 日比谷公園グランドデザインの概要

(1) 特性と課題

- ・利用者層が限定
- ・新たな魅力に欠ける
- ・暗い箇所がある
- ・バリアフリーに対応していない箇所がある
- ・設計思想が継承
- ・皇居と一体となった緑
- ・多様なまちと隣接
- ・まちとの連携に欠ける
- など

(2) 日比谷公園の将来像～5つの提言～

- I 誰もが迎え入れられ、心地よく過ごせる上質な公園
- II まちと連携し、相乗的に新たな魅力を生み出す公園
- III 歴史的、文化的価値を顕在化させた特別な公園
- IV 緑とオープンスペースのネットワーク形成の核となる公園
- V 多様な主体と連携し、利用者の視点で運営する公園

<園内を主要園路で分割した区域図>



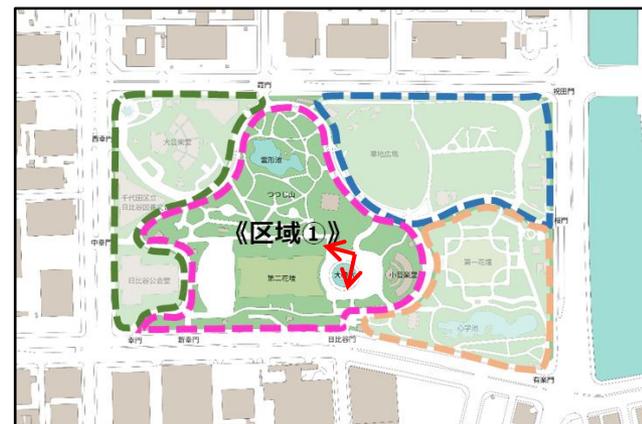
(3) 区域別の将来像

- 区域①：緑に包まれ誰もが思い思いに過ごし、賑わいの拠点ともなる区域
- 区域②：江戸・東京の歴史を体感でき、丸の内・有楽町の玄関口となる区域
- 区域③：皇居の緑との一体感が感じられ、多世代が生き活きと活動できる区域
- 区域④：東京の歴史を学び、緑の中で文化を育み、まちに発信する区域

(3)区域別の将来像 <<区域①>>

緑に包まれ誰もが思い思いに過ごし、賑わいの拠点ともなる区域

- 日比谷公会堂を中心としたヴィスタ景観を継承し、憩いと賑わいの場となる開放的な空間
- 芸術やエンターテイメントなど多彩な魅力を先導的に打ち出す空間
- 歴史的、文化的価値の高い資源を保全、修復し、公園の顔として活用する空間



大噴水上空から見る第二花壇

* 広々とした芝生空間で、ヴィスタ景観に配慮したイベント開催のイメージ

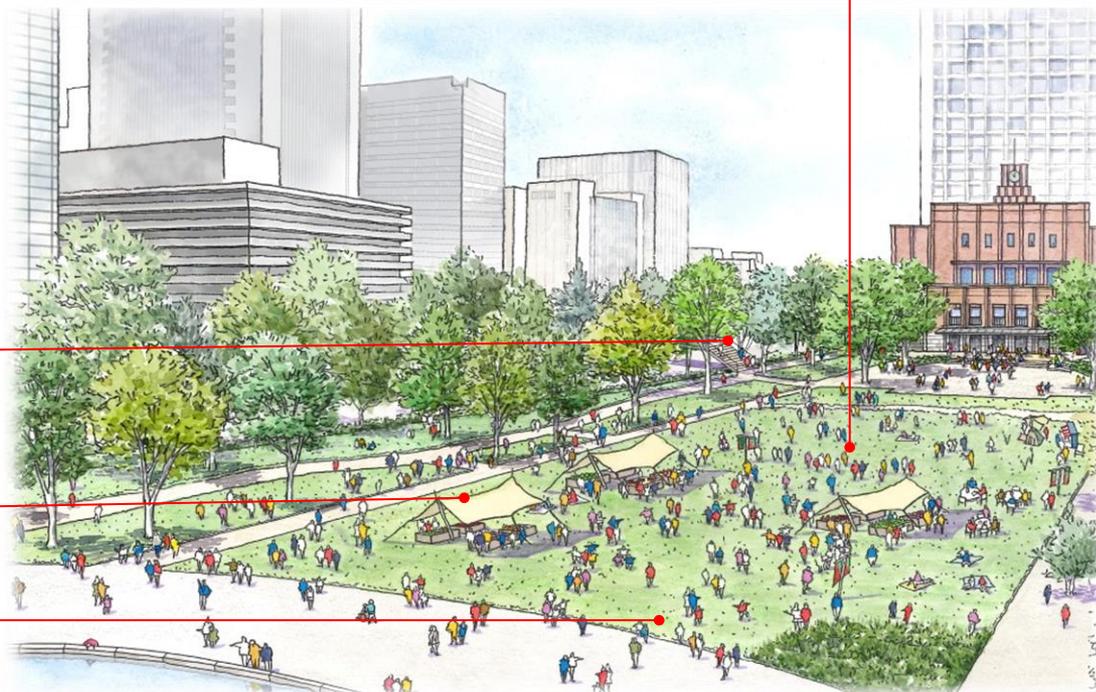
<イメージ図>

■ 広々とした芝生空間の活用

■ ビューポイントの創出

■ ヴィスタ景観に配慮した仮設テント設営

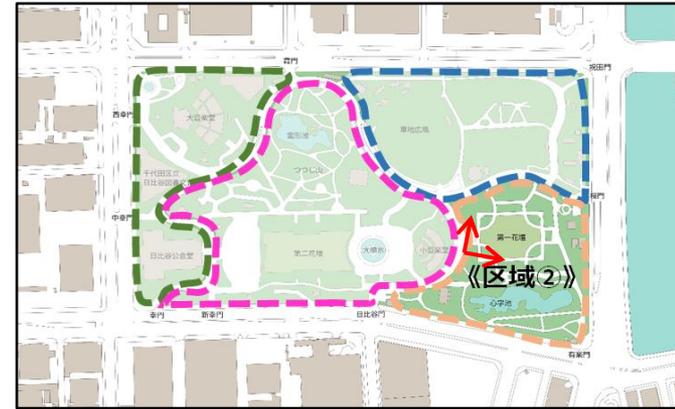
■ まちと連携したイベントの開催



(3)区域別の将来像 <<区域②>>

江戸・東京の歴史を体感でき、丸の内・有楽町の玄関口となる区域

- 近代的洋風公園として風格ある景観で、花と緑に包まれ、誰もが心地よく過ごせる上質な空間
- 江戸の遺構を活用して皇居との一体感を演出し、東京の歴史を体感する空間
- 周辺の街や皇居外苑等からの玄関口として回遊性を高める空間



第一花壇の様子

* 公園の玄関口として、誰をも迎え入れ、花と緑に包まれ心地良く過ごせる空間のイメージ

<イメージ図>

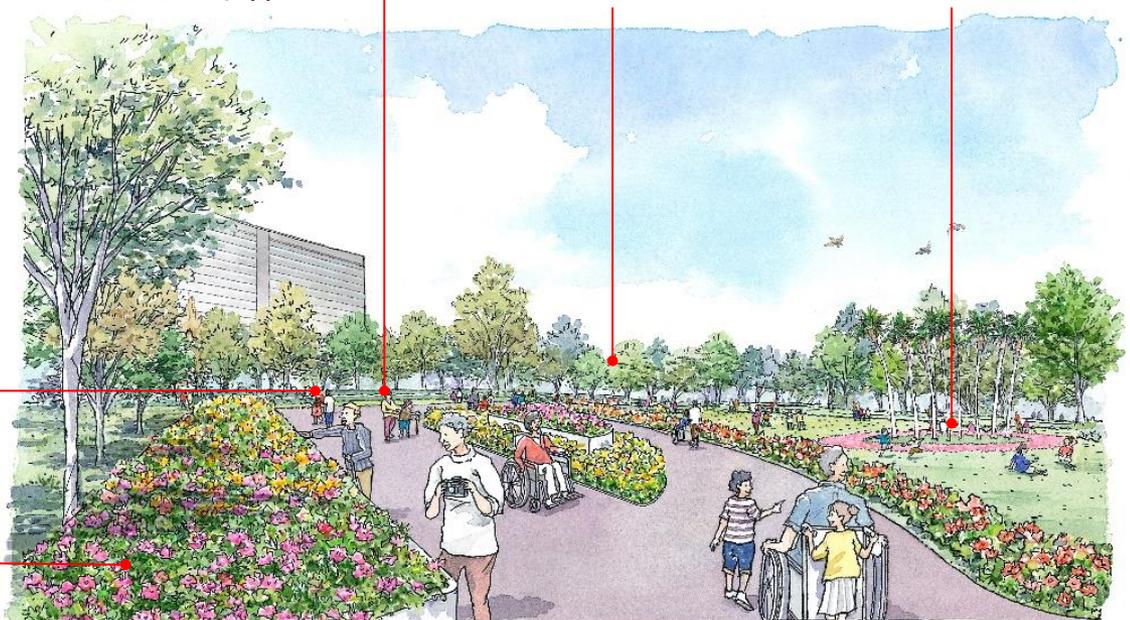
■ 誰もが移動しやすい
動線の確保

■ 見通しの確保

■ 多様な来園者が
思い思いに心地良く
過ごせる空間

■ 広域情報の入手
(案内板等)

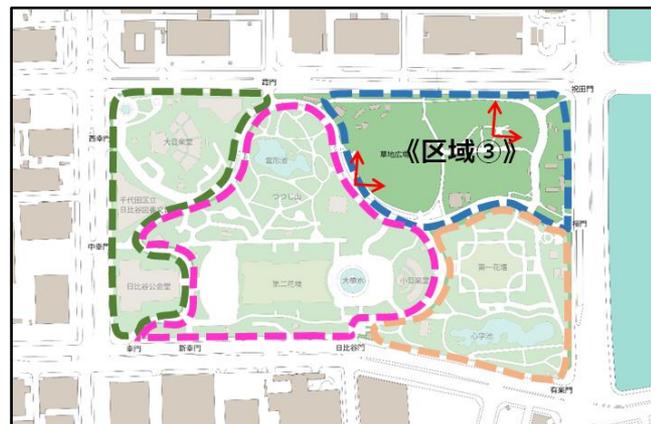
■ 多様な人々が草花に触れ、
香りを楽しむ事ができる花壇



(3)区域別の将来像 《区域③》

皇居の緑との一体感が感じられ、多世代が生き活きと活動できる区域

- 日比谷公園と皇居周辺の緑が形成するエコロジカルネットワークの結節点となる空間
- セントラルパークとして皇居外苑等との一体感を創出する空間
- すべての世代が生き活きと活動したり、憩い、佇むことが出来る空間



草地広場付近

* 誰もが楽しみ生き生きと活動できる空間のイメージ

■ エコロジカルネットワークの結節点となる園地を構成する樹林など

■ 子供からお年寄りまで多世代が佇む空間の創出

<イメージ図>

■ 見通しの良い樹林地

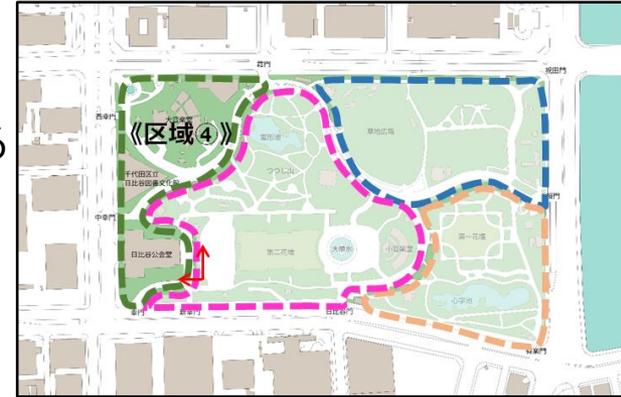
■ 子供から大人まで、色々な使い方ができる施設



(3)区域別の将来像 <<区域④>>

東京の歴史を学び、緑の中で文化を育み、まちに発信する区域

- 日本最初の近代公園として洋楽文化を世界に向けて発信する空間
- 豊かな緑の中に歴史的建造物がもつ風格と現代建築の魅力が融合する空間
- 官民連携で、まちに開かれた賑わいを創出する空間



にれの木広場から見る公会堂

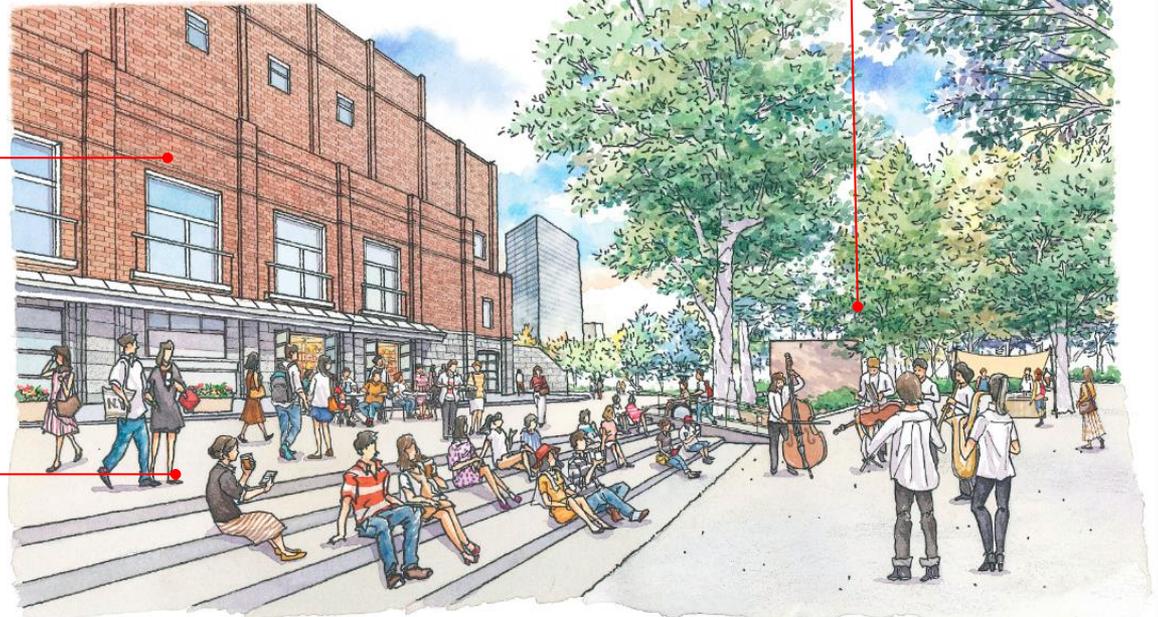
* 風格ある建物をバックにカフェや音楽で賑わいを創出する空間のイメージ

<イメージ図>

■ 音楽、芸能文化の発信

■ 歴史的建造物の保全

■ 市民に開かれ、賑わいを創出する空間



(4) 実現に向けて

- ①日比谷公園整備計画の策定 ➡ 公園の具体の姿を示す整備計画を策定、計画的に整備
- ②進化する公園の姿の発信 ➡ 公園の変化を都民が実感できる取組から優先実施
- ③セントラルパーク(都市計画中央公園)と他の都立公園への展開 ➡ 関係者との協議会を設置

4. 今後の進め方

- ・2019年度に、日比谷公園の再整備計画を策定し、計画的に整備を図っていく
- ・バリアフリー対応など、優先して実施すべきものは、これと並行して実施する

